

### 浜高教 2023 度の執行部担当

★ 主な担当

2023/03/27

| 役職       | 氏名   | 分会    | 担当専門部                     | 担当各部・委員会                          | 担当分会                            | 市 労 連                                      |
|----------|--|-------|---------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|--|
| 委員長      | 木立 敏樹<br>   | 戸塚定   | ★賃金対策部<br>★福利厚生部          | ★青年部<br>★定時制対策委平和教育推進委            | 金 沢<br>戸塚定<br>南<br>横浜総合<br>横浜商業 | 副委員長<br>三役会議<br>調査部会<br>マイナンバー問題           |
| 副委員長     | 井上 大司<br>   | 戸塚全   | ★教育研究部<br>★情報宣伝部          | ★事務職部<br>メーデー実行委                  | 戸塚全<br>みなと総合                    | 中央委員<br>会計監査                               |
| 書記長      | 三木マリ子<br>  | ろ う   | 賃金対策部<br>★教育財政部<br>★浜高教情報 | 実習教員部<br>★メーデー実行委<br>★臨任・再任用問題対策委 | 桜 丘<br>東<br>横商別<br>ろ う<br>YSFH  | 執行委員<br>企画部会<br>しごと改革<br>横浜 DX 戦略<br>再任用制度 |
| 書記次長     | 乙守 貴子<br> | 港南台ひの | 教育研究<br>★組織法制部            | ★障教部<br>★実習教員部女性部                 | 特別支援                            | 中央委員<br>障がい者雇用問題                           |
| 会計       | 大山 澄子<br> | 盲     | ★組織法制部<br>福利厚生部           | 障教部<br>★女性部<br>★平和教育推進委           | 盲                               | 中央委員<br>財政部長会議<br>福対部会<br>青女協              |
| 会計監査     | 小野 淳一  | YSFH  |                           |                                   |                                 |  |
| 会計監査     | 市原麻理子  | 戸塚定   |                           |                                   |                                 |  |
| 書記       | 梶本有実子  | 勤務時間  | 平日 = 10:00~17:00          |                                   |                                 |  |
| 書記局アルバイト |  | 勤務時間  | 不定期 13:00~17:30           |                                   |                                 |  |

- 分会** 金沢 桜丘 戸塚全 戸塚定 東 みなと総合 南 盲 横浜総合  
横浜商業 横浜商業別科 ろう サイエンスフロンティア (YSFH) 13分会 特別支援 4
- 専門部** 賃金対策部 福利厚生部 教育財政部 組織法制部 教育研究部 情報宣伝部
- 各部** 障害児教育部 実習教員部 事務職部 青年部 女性部  
メーデー実行委員会 平和教育推進委員会 定時制対策委員会 臨任・再任用問題対策委員会

## 二〇二三年度のはじめにあたって

執行委員長 木立 敏樹

「最後まであきらめないで闘ってよかった」。WBC準決勝の逆転さよなら勝ちの後、日本選手は口々に語っていました。小さい時から野球に打ち込んで、それぞれのチームで、学校の部活で、プロ野球のチームで腕を磨いた選手たちがこの数か月で一つのチームを作り、団結して試合に臨んだ結果でもあります。端から見ても、その雰囲気は感心させられるものであります。

普段は別々の職場で働き、時には部活動で敵味方として闘う事もある私たちですが、組合は一緒です。みんなで力を合わせて、団結して一つ一つの問題に取り組んで行きたいと思えます。コロナ禍が一段落しても、「賃金アップ」「長時間労働の削減」「一年単位の変形労働制」「夜間定時制手当の復活」

「定年延長」「常勤講師の方々の差別の解消」・・・これらの課題はまだまだ解決していません。世界に目を向けると、いつ戦争に巻き込まれてもおかしくない情勢です。そんな中、我々浜高教は「教え子を再び職場に送るな」のスローガンを掲げ、活動していきたく思います。今年度も「少しでも皆さんが

## 歩く分科会 報告

# 千葉に行ってきました!!

2023年1月28日(土)、コロナ禍を乗り越え、実に3年ぶりに「歩く分科会」が開催されました。

再開を祝福するかのような晴天に恵まれ、総勢16名、千葉県北部へ行ってまいりました。横浜駅東口8時出発、午前中は東日本大震災で津波の被害に見舞われた旭市にある千葉県旭市防災資料館を訪れ、施設の方より当時の状況や旭市の現状について大変興味深いお話を聴かせていただくことができました。市街地に甚大な被害を与え13名も



の尊い命を奪った津波の脅威に、誰の心にも残るあの時の恐怖が呼び覚まされました。また、10年以上の年月を経てもなお空き地が目立つ市街地の現状からは、復興の困難、失われた日々とは何であるのかということとを深く考えさせられました。昼食は横浜ではあまりなじみのない地元のアミレスで、おすすめの鍋焼きうどんをおいしくいただきました。午後は大原幽学記念館で、幕末の農業指導者・大原幽学の足跡について施設の方からご説明いただきました。教育を重視した人づくり、合理的な農業施策、世界最初の農業協同組合である先祖株組合結成など、幽学の取り組みには、大変感銘を受けました。帰路には道の駅季楽里あさひに立ち寄り、地元野菜やお土産の買い物を楽しみ、18時横浜駅東口帰着となりました。

コロナ禍により、仲間が集まり親睦を深める場を設けることが困難な状況にありながら、この度、歩く分科会が開催できたことを大変うれしく思います。和やかな雰囲気の中、みんなで学び、みんなで楽しむ、久しぶりのバス旅行は、とても心地よいひとときでした。今後、このような行事の再開に取り組んでいきたいと思っております。組合員の皆様には、ご参加とご協力のほど、どうかよろしくお願いたします。(井上土司)



# 第66回神奈川県母親大会

去る1月14日(土)、第66回神奈川県母親大会が厚木市文化会館で行われました。

午前は映画上映と三つの分科会に分かれ、午後は東京大学名誉教授でもある上野千鶴子さんによる記念公演でした。私は午前はアフガニスタンを中心に病や貧困に苦しむ人々に寄り添い続けた中村哲さんの「荒野に希望の灯をともし」というドキュメンタリー映画を鑑賞しました。医師でありながら、水不足が解決されなければ問題が解決しないと、自ら水路建設のために重機を操り、埃まみれになりながらアフガニスタン国民のために尽力された中村さん。そ



## 二〇二二年度 高校教育シンポジウム

横総分会 木立敏樹

一月二十八日(土)・二十九日(日)の二日間、山梨県笛吹市において全日本教職員組合と全国高校組織懇談会の共催で、「子どもたち・生徒たちに寄り添った学校を」子どもたちの権利が生きて輝く高校ををテーマに、高校教育シンポジウムが開かれました。昨年度は新型コロナウイルスの影響で、オンラインにて一日で行いましたが、今回は無事対面で行うことができました。百人を超える参加者(浜高教からは二人)がありました。

前半は全体会で、主催者を代表して宮下直樹全教委長・高校懇代表世話人、共同研究者植田健男高校教育研究会会長があいさつ。評論家、NPO法人ストップ

## 38年間働いて

横商分会 小林友子

の語り口は穏やかで人類に対する愛の深さを感じるものでした。平和のために必要なものは武器ではない、と心を打たれました。午後には上野千鶴子さんの講演での歯に衣着せぬ、時に辛口なコメントに、会場は大盛況でした。

(横商分会 小島寛子)

38年間で7回の卒業生を出すことができた。二人の子供の出産、子育て。まったくと言っていいほど余裕のなかった私を生徒や同僚の先生が支えてくれた。上の娘の育休時は33時間講師という謎の?制度ではあったが、これも組合の

## 「3.8国際女性デー神奈川県集会」に参加して

去る3月4日、「2023年3.8国際女性デー神奈川県集会」

この春、ジェンダー平等を私たちがつくる!」がオンラインで行われました。日本の出生数が2022年に

いじめ!ナビ代表理事の荻上チキさんによる講演「ネットいじめ・いじめの実態、なぜ起こるのか」が行われました。

後半の分科会、私が参加した二分科会「民主的な主催者を育てる学校づくりをすすめよう」では山梨県立甲府南高等学校より「高校生による模擬投票から見えてきたこと」、北海道札幌東豊高等学校による「学校の指導について考えること」、山口県高等学校教職員組合より「山口県立田部高等学校における校則見直しの取組について」の三本の発表がなされました。どの発表も「主権者教育」に関わる「何を目的として指導するのか」を考えさせられるものでした。

活動のおかげで一歩前進した制度。そして、育児休暇の臨任制度へと進んでいった。何もできないが恩返しだと思って「組合員」であろうと思った。そして、今時代の流れとともに組織率が下がっていることに少しさみしさを覚える

元議員の方など、多方面から各活動の報告があった。今回の企画の理由には、そもそも政治に参加している女性が少ないので関心をもってもらいたいという意図があった。議員になった方たちは元々政治に関心があったというよりは、子育てをしていて解決したい社会事情があると感じ、それを

「3.8国際女性デー神奈川県集会」では神奈川新聞の報道部女性記者をはじめ、給食いいねの会、中学校給食実現のための動きの

の信頼関係を構築しているのは教育の大前提であると思込んでいた。いかに、すれ違ったまま学級経営を続けている現場が多いか、いじめの件数と比例しているか、いじめの件数と比例しているか、と思うとゾッとします。確かに、普段からいじめを行うことに罪悪感を覚えるように意識して刷り込むことや、この先生の信頼を裏切らない、と生徒に思わせる信頼関係づくりがなければ、容易にいじめは発生するだろう。しかし、その一方で教員の方から、「十分

る。学校現場の余裕がなくなってきた結果なのだろうか。

先日、金沢高校での卒業生から連絡がきた。30年前の卒業生。初任校では卒業生を出すことができなかった私にとって、初めての卒業生。娘さんが金沢高校に合格したという、うれしい連絡だった。これが、市立高校のいいところの一つだとつく

変容も知ることができた。最初のうちは男性議員との懇談において「署名は数じゃない」「家弁当で教育は成り立つ」という意見、議会での「弁当だろう!」というヤジなどと、自分たちの価値観を優先されてしまっていた。最近「全員給食にすべき」と意見が集約され、声を上げることで変わることが実感できたのである。

まだまだジェンダー平等への道筋は長い道のりだが、先輩方が作った道の上に今の私たちの状況があり、未来につながる道をつないでいく必要があるのだと感じた。

(YSFH分会 原敦子)

に信頼関係を築いていても、いじめは起こりえるのでは」という意見も挙がった。それもそうだ。一生懸命指導している立場からすれば、いじめは先生のせいだ、といわれた様で気分が悪い(言っていないが)。でも、チキさんは言った。いじめの加害者は被害者にもなる。それを防ぐためには「いじめは被害者に一生のトラウマを残す事もある」といった事例を自分の経験をもとにして伝える、または休み時間の見守りをつけるなど実際に行動を起こし続けるしかない。それでも起こってしまう。その時に被害者の親や教員は、加害

づく感じる。ちなみに彼女のお母さんも金沢高校の卒業生だそうです。

だ。市立高校の卒業生の子供はかなりの確率で市立高校を選んでくれる。親世代が母校愛を持ち続けられていくということの証だと思ふ。これからもそんな学校であってほしいと願っている。

今年の執行役員がたったの5人になったことを見て驚き、組合の将来が心配になりました。職場には今なお多くの問題があると思いますが、現在の職場環境も労働条件も権利も全て組合があつてこそ、当局との交渉の成果なのです。独りで悩んでも何もできません。組合と先輩方の努力で、ともし続けてきた灯を受け継ぐことができるのは組合員の皆さん一人ひとりです。経験は問いません。何とかしなくては、と思った方は今こそ立ち上がって、ご協力いただきたいと思います。

者の親と子を一方的に攻撃するのはなく、普段から親同士のコミュニケーションを密にしておき、「今回はすみません」、「いえ、うちもあり得ることなんです」「お互い様です」と情報交換ができるような関係を親が作っておくことも大切、と。講演を聴いて学んだことは、いじめが起こらないような教育と親同士の連携が不可欠なんだな、ということだった。短い時間であったが、未来を担う子供たちのために、国内外の色々なデータを比較して「ストップいじめ」を行っている姿には感銘を受けた。

(西)

の親と子を一方的に攻撃するのはなく、普段から親同士のコミュニケーションを密にしておき、「今回はすみません」、「いえ、うちもあり得ることなんです」「お互い様です」と情報交換ができるような関係を親が作っておくことも大切、と。講演を聴いて学んだことは、いじめが起こらないような教育と親同士の連携が不可欠なんだな、ということだった。短い時間であったが、未来を担う子供たちのために、国内外の色々なデータを比較して「ストップいじめ」を行っている姿には感銘を受けた。

## 荻上チキさんの講演に参加して

横商分会 福澤あやめ

荻上チキさんの講演は、私が認識していたいじめの概念を大きく覆すものだった。

いじめが起こる現場は、休み時間の教室が多い。それは、教師が場を離れる時間であり大人の目が届かない瞬間だからである。それはシンプルに理解できたが、その後の「いじめが起こるクラスは、加害者と担任の信頼関係が十分に取れていない場合が多い」というデータには驚いた。担任が生徒